

ふるさとの文化・歴史に触れてみよう！

史跡めぐり歩こう大会

(平成21年度、出水地区編)

- 先人が残した名所、旧跡を訪ね、ふるさとの文化や歴史についてもっと知ろう
- 郷土の景観や自然にふれ、ふるさを愛する豊かな心を育てよう
- 体を動かして、健康増進を図ろう

	日	程
期 日	○平成21年5月17日(日)	
受 付	8:30~8:55
	○ 出欠確認、資料配布	
開 会	9:00~9:10
	○ 出水市教育委員会教育長挨拶	
	○ 講師の紹介	
	○ 行程説明、諸注意	
スタート	9:15
	○ 出水小学校校庭、出水假屋門 ⇒ 城山 ⇒	
	薩州島津家の墓 ⇒ 巡見使の墓 ⇒ 山田昌巖の墓 ⇒	
	仁王像 ⇒ イボの神様 ⇒ (休憩、河原広場) ⇒	
	逆修碑、五輪塔・層塔 ⇒ 成願寺跡 ⇒ 南兄弟の墓 ⇒	
	ゴール (出水小学校校庭)	
到 着	12:00
	○ 閉会の挨拶	
	○ 解 散	(12:10)

主 催 出水市、出水市教育委員会
協 力 出水歴史民俗資料館、出水市立出水小学校
連絡先 出水市文化町23番地
出水市教育委員会生涯学習課 電話63-2106 FAX64-1105

平成21年度

史跡めぐり歩こう大会コース図



注意事項

- 1 2列縦隊で道路の左側を、歩道のあるところは歩道を歩んでください。
- 2 道路を横断するときは、係員の指示に従ってください。
- 3 途中、気分や具合が悪くなった場合や、やむを得ず途中で帰宅される方は、近くの係員にお知らせください。

①出水假屋門

假屋門は、風土誌「出水記」によると、「麓の小路は九字の形とかや、假屋の石垣は清正の贈り物、門は帖佐の城より移さる」とある。島津義弘は国境の重要な地である出水に隠居しようと考えていたようで、帖佐鍋倉の居宅の門をいち早く出水に移させていたが、諸般の情勢からそれは実現しなかった。

(S41年12月20日 市指定有形文化財)



②城山（亀ヶ城・花見ヶ城）《0.8 km 地点》

建久8年（1197）の薩摩国図田帳によれば、「出水郡350町、下司和泉小太夫兼保」とあり、この兼保が亀ヶ城を築いたとされている。また、地理誌や三国名勝図会などには、亀ヶ城とは、出水城のことで、梶氏(兼保の子孫)の居城であったが、島津用久が出水郡に封じられて当城に居り、薩州家と号して、以後7代忠辰まで居城したことが記されている。

(S41年12月20日 市指定史跡)

③薩州島津家の墓《1.7 km 地点》

薩州島津家初代用久から7代忠辰までの墓が並ぶ。用久は島津宗家9代忠国の弟で、兄に代って国一揆といわれた領内の反乱を鎮圧し、阿久根、野田、高尾野の諸城を収めて、享徳2年（1453）出水城（亀ヶ城）に入った。それから140年、出水は薩州家に統治されることとなる。

(S52年2月1日 市指定史跡)



④巡見使の墓

この石塔は、幕府の隠密が出水で殺され、その人のために建てた墓だと伝えられてきた。だが、島津家文書によると、徳川家斉の將軍宣下に当たって薩摩に下った巡見使が領内で客死し、その死骸を焼いた「火地」、すなわち灰塚と記されている。



⑤山田昌巖の墓

山田昌巖は出水3代目地頭である。昌巖は武勇の誉れ高かったが、驕ることなく、軽薄の風を厳しく戒め、勤儉尚武の徳を勧めたので、出水の士風は盛んになり、所謂「出水兵児」の名がおこったのである。昌巖は満90歳の高齢で萩之段の閑居で他界した。遺骸は田之頭で火葬に付したのち、西之口の上高城に葬られた。

(S41年12月20日 市指定史跡)



⑥仁王像《2. 5km 地点》

この2体の仁王像は、欠損はしているが、手には偉大な力を持つ金剛杵を持っている。息を吸う阿形金剛力士像と、息を吐く吽形金剛力士像である。吸う息と吐く息が合えば、阿吽の呼吸が合うという。

廃仏毀釈によって手と杵は見当たらない。



⑦イボの神様（島津忠兼の墓）～伝承～

この墓は、薩州家6代島津義虎の叔父とも弟ともいわれる島津忠兼を祀った墓と伝えられる。

忠兼は野田・長島を領し、知勇兼備の部将として領民に慕われ、その名声は本家を凌ぐものがあった。そのため、これを快く思わない義虎にだまし討ちに遭ったという。

いつの頃からかこの墓にお供えした水をつけると、イボが取れる神様と親しまれるようになった。



⑧逆修碑《4. 5km 地点》

逆修碑とは、生前に死後の安楽を願って建てる碑である。

この石碑は、刻字から権少僧都勢音という僧が自分の死後のよりよい冥福を祈って、生前に供養し建立したものと考えられる。

(S63年3月1日 市指定史跡)



⑨五輪塔・層塔

五輪塔及び層塔は、主に供養塔・墓塔として使われる仏塔の一種である。

この地は成願寺を中心として、その周辺に八つの坊(寺)があった。ここ八坊通りの各家には、それぞれ2、3個ずつは五輪塔その他欠損部が残されている。

(S63年3月1日 市指定史跡)



⑩成願寺跡《4.7 km 地点》

成願寺周辺にあった八つの坊(寺)は明治初頭の廃仏毀釈によって全て壊された。ここには寺跡から発掘された歴代住職の墓石のほか、宝塔、六地藏塔などが集められている。



⑪南兄弟の墓《5.6 km 地点》

向江郷土で低い石高の南家は、貧困から土地を担保に金を借りたが、不作のため借金が返せず、とうとう貸主から土地を取り上げられてしまった。南氏は時間的猶予を請い願ったが、聞き入れられず、刃傷沙汰となり重傷を負い、これがもとで落命してしまった。残された2児は隠忍すること7年、見事に父の仇を討ち果たした。しかし、藩庁の裁定は「2人に切腹を命じる」であり、2人はそれに従い切腹して果てたのである。



関係文献の紹介

出水假屋門

『出水の文化財』 37～38 頁

城山

『出水の文化財』 17～18 頁

薩州島津家の墓

『出水の文化財』 7～8 頁

巡見使の墓

『出水の文化財』 103～104 頁

山田昌巖の墓

『出水の文化財』 9～10 頁

『出水の文化財』 27～28 頁

「山田昌巖灰塚」

『出水の昔ばなし』 137～143 頁

「山田昌巖物語」

仁王像

『出水の石碑・石造物』 72 頁

「龍光寺境内」

イボの神様（島津忠兼の墓）

『出水の文化財』 97～98 頁

『出水の昔ばなし』 10～11 頁

逆修碑

『出水の文化財』 21～22 頁

『出水の石碑・石造物』 95 頁

「八坊の逆修碑」

五輪塔・層塔

『出水の文化財』 23～24 頁

『出水の石碑・石造物』 94 頁

成願寺跡

『出水の文化財』 85～86 頁

『出水の石碑・石造物』 89 頁

「成願寺跡の墓石群」

南兄弟の墓

『出水の文化財』 87～88 頁

『出水の石碑・石造物』 91 頁

「孝列南兄弟之碑」

メモ欄